

環境問題の視点から、海について考える

鳥羽市立神島中学校
教諭 中垣 尚子

1. 教科 英語、総合

2. 対象 鳥羽市立神島中学校全校生徒

3. 研究テーマ 環境問題の視点から、海について考える

4. 目的

神島中学校は全校生徒11人、小学校と併設している。小学生が全校で15人で、中学生と合わせて26人の小さな学校である。神島は鳥羽から定期船で30～40分、伊良湖までなら15分という場所に位置し、定期船の本数も1日4便。神島には高校はなく、生徒達は中学校を卒業すると船で学校に通うか、下宿することになる。

島の方のほとんどが漁業に従事し、漁によって生計を立てており、海に囲まれているという地形もあり、海はとても身近な存在である。

地理的にも生活の面でも海とは切っても切り離せない環境の中で育ち、これからもここが生徒たちにとって大切な場所であり続ける。今、海で起こっている問題に目を向け、少しでも島や地元の海について考え、これから出来ることに少しでも取り組んでいきたい。

『神島の人たちの大事な海を守る』という視点で、よりよい神島での生活や環境を考えていく機会にしたいと考えた。

5. 授業計画

(1) 実施日と内容

- ① 令和元年6月12日(水) 13:45～14:30 小中合同地域清掃
 - ② 令和元年7月3日(水) 12:50～13:30 浜清掃
 - ③ 令和元年9月14日 英語科教科書 小笠原諸島から学ぶ
 - ④ 令和元年9月14日 松岡先生によるエネルギー環境のお話
 - ⑤ 令和元年10月11日 海についての落語講演会 5限目 小中合同全校生徒
(夜の部 PTA 講演会)
- ※⑤は台風により中止

6. 授業実践

①②【地域清掃】

小中学校で共同で行なった。毎年行なっている行事であるが、去年までは小中別で行なっていたが、今年度は共同で行なった。縦割りのグループを作り、環境美化委員会の主導で行なった。高学年や中学生が声を掛けながら、共に熱心に取り組むことができた。また最後には気がついたことを発表し合う場面を設定した。

生徒から意見

- ・ゴミが多かった。

- ・ペットボトルのゴミが多かった。
- ・これからも続けていきたい。
- ・ハングルが書かれたゴミもあった。
- ・地域の人にも呼びかけて行きたい。

自分たちがゴミを捨てなくても、観光客によるゴミや日本語でないゴミを見ることで、日本だけではなく、誰かがどこかで捨てたゴミが自分たちの生活圏に影響を及ぼしていることなど、世界中が海によってつながっていることやお互いに影響し合っていることを感じる事ができたように思った。

(地域清掃、浜清掃の様子)



(最後は集合し、活動の感想や集まったゴミに関する意見などを交流した)

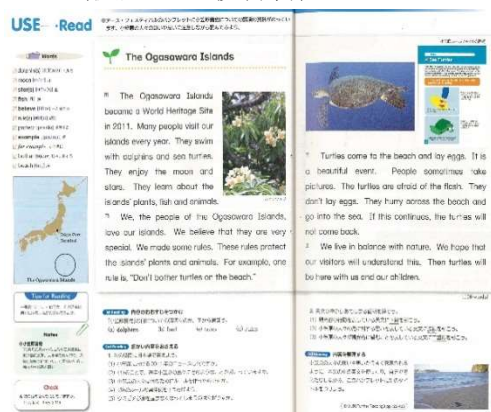


③④【英語】

(中学2年生の復習を交え、1～3年生全校生徒による合同英語の授業)

1. 教科書P30、31の本文の内容を通して小笠原諸島とウミガメについて知る
読解問題を通して本文の内容を読解する
2. ウミガメを通して環境問題やプラスチック汚染についてパワーポイントを使って紹介する
3. 【派生図】 (1) プラスチックを使い続けたらどんなことが起こるか？
(班で取り組む)
【動画】 ストローの使用に関するものや鳥たちの動物がプラスチックを食べてしまっている様子を見せ、現在問題となっていることについて情報を与える
【宣言】 自分にできることを宣言する&キャッチコピーを考える
4. 松岡先生に原子力発電所の報告や先生自身がアメリカに滞在しているときに感じたアメリカ人の環境に対する意識などについてのお話

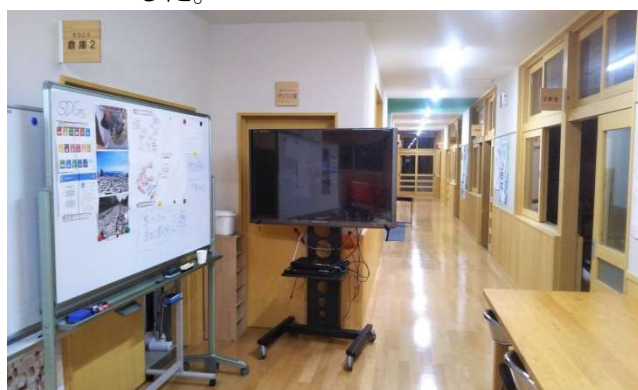
(使用した教科書)



(授業中、派生図を使って班で話し合う様子)



- ・授業後も引き続き、意見があれば追加できるように廊下にホワイトボードを設置した。



7. 課題と成果

「海」というテーマで、プラスチックに関する問題を中心にいろんな形で取り組むことができた。授業で話を聞いたり、動画を見たり、生徒同士で話し合うだけでなく、清掃活動を通して実際に現場の様子を見たり、中学1年生は漁業体験を通し

て実際に船の網に引っかかったウミガメを見たりする機会もあった。そのため、現状や危機感により実感を持つことができたように感じる。生徒の身近な問題であると同時に、今回取り組んだテーマがタイムリーであったため、保護者も巻き込みながら話もしやすかったため、よりいい機会になったと思った。PTAの役員会でも今、生徒が取り組んでいる海の環境問題について話をさせていただき、また予定していた「海の親子寄席」という講演についても、より有効な機会にできるように触れさせていただいた。PTA役員会の行われた日に、ちょうどテレビでも同じ問題を取り扱った番組があったようで保護者も関心を持って声をかけてくださった。その時にある保護者に言われたのが、「子供たちはポイ捨てしないけれど、高齢者の方がポイ捨てをすることが多い。地域の高齢者の方たちにも話をしてもらおうといい。」ということであった。

生徒だけでなく、地域も巻き込みながら取り組んでいく方法を生徒と共に考えて行けるといいと思った。また今回のように授業だけでなく、行事や体験など、いろんな角度からテーマにつながる取り組みができたのはとてもよかったように思う。この課題については、学校の総合の軸にして取り組んでもいいという意見もあったので、今年度だけでなく、引き続き取り組んで行き、神島にとっての持続可能な地域のあり方を考え続けて行けたらいいと思う。最初のステップとしては生徒に関心を持って欲しかったので、授業が終わってからも質問に来たり、興味を持っている様子を見ると最初の段階は成功だったように感じる。今後の進め方をどのようにするのがいいのか、持続可能な進め方も踏まえて考えて行きたい。

(漁師体験の時に見つけたウミガメの様子)

